

第 154 回 TMS 年次総会の参加報告

大学院理工学研究科博士後期課程 複雑系システム科学専攻 2 年 伊藤 温海



私は、2025 年 3 月 23 日～27 日、アメリカ合衆国ネバダ州ラスベガスの MGM グランドラスベガスホテル&カジノにて、開催された第154回TMS 年次総会 (TMS 2025 154th Annual Meeting & Exhibition)に参加しました。本大会では、約 4700

もの Abstract が提出され、当日多くの参加者が集まりました。なお、受付で筆者が聞いたところ、Abstract の提出数のおおよその内訳は、米国が約 2000、韓国が約 250、中国が約 250、英国が約 200、インドが約 200、ドイツが約 150 でした。TMS は米国の国内講演大会ですが、このように米国以外の参加者も多く、実質的に国際会議として機能しています。

初日の 3 月 23 日はレセプションが開かれました。レセプションでは軽食が用意されており、参加者とコミュニケーションを取るのにちょうどよい場となっていました。3 月 24 日～27 日は、70 以上もの部屋を使い、141 のテーマに分かれ講演発表が行われました。講演発表の合間には、コーヒーと紅茶が自由に飲めるようになっており、穏やかな雰囲気でした。3 月 24 日と 25 日の夕方には、ポスターセッションが催されました。ポスターセッションの発表件数は 600 以上で、とても広い会場でドリンクサービスもあり、リラックスした中で行われました。筆者もポスターセッションにて、“Relationship between grain boundary precipitation and hydrogen embrittlement in an Al-4%Cu-1.5%Mg alloy”という題目で発表をしました。多くの質問とコメントをいただき、今度の研究に活かしたいと思います。

また、筆者は 1 歳になる子どもがおり、本大会と一緒に参加しましたが、子ども連れの参加者のために、

「mother's room」が用意されていました。子育てと研究の両立を図る研究者への気遣いが感じられました。筆者も子どもの昼食とお昼寝の際に、「mother's room」を活用いたしました。国内の学会でも、大会中に託児施設の利用ができる学会が増えており、今後このような取り組みが、世界的にさらに増えてほしいと願います。

今大会の講演発表とポスターセッションを通して、最新の各種材料研究の動向の調査や、米国をはじめとした各国の研究者との情報共有ができ、とても有意義な経験でした。最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった先生方、並びにご支援してくださった加賀工業会様に心より感謝申し上げます。



図 1 本大会 PR 看板前での写真